

(^_^) 『明日からの学級が変わる！HOWTO学級作り・特別活動』 (^_^)
(^_^) 山口学級活動ネットワーク メールマガジン (^_^)
(^_^) 平成18年09月12日発行 第11号 (^_^)

∞メニュー∞∞∞

- 1 子どもが主体的に取り組む話し合い活動 その3
- 2 運動会を学級作りに生かす
- 3 報告「山口学級活動ネットワーク 夏の学習会」 その2
- 4 メルマガ情報交換広場
- 5 メルマガ編集部からのお知らせ

∞∞∞

2学期が始まり、あっという間に1週間近くが過ぎました。始業式に出会った子どもたちの様子はいかがでしたか？ 2学期は学級が加速的に成長する時期でもあると考えます。計画的に学級作りを進めていきたいものです。

1 子どもが主体的に取り組む話し合い活動～その3 議題を決める～
山口市立平川小学校 梶田崇晴

前回、議題を集めることについてまとめてもらいました。今回は、集めた議題をどう整理していくかについてまとめてみたいと思います。

学級会活動の話し合いの成果があがるかどうかは、議題選定の是非によって決まるとさえ言われています。子どもたちにとって話し合う必然性のある議題をいかに選定していくか、非常に大切なものだと考えます。担任として適切な指導が求められる場面です。

■ 議題を選ぶ視点

子どもたちから出された議題案を選ぶ際、担任は「どのような視点を持って指導を行えばよいか」について、まとめてみます。

その1 学級の多数が早急な解決を望んでいる議題

ここでの視点は「課題性・緊急性」です。子どもたちにとって話し合う必然性が最も高いものだといえるでしょう。例えば、男女の仲がうまくいっていない状況で、子どもたちの中に「男女の仲をどうにかしたいなあ」という気運が高まってきたとき、「みんなで協力し合って料理コンテストをしよう」というような議題は、タイミングのよい議題だと言えます。このような議題は、議題化する際に全員を納得させることができやすいし、また、学級の世論を高めやすいものでもあるのです。

その2 学級内の問題で、学級のみんなに関係がある議題

ここでの視点は「相互性・協同性」です。議題案として出されたものでも、学級の中の数名にかかわるようなものであれば、学級会の議題として取り上げることは難しいです。ただし、そこで出された議題を全員で考えてほしい場合には、担任の方で手続きをとって議題化することも可能です。例えば、「みんなが気持ちよくなる掃除の仕方を考えよう」というような議題にし、数名の問題を学級の問題として取り上げるのです。

その3 決めたことを具体的に実行できる議題

3つめの視点は「現実性・具体性」です。解決のための手続きにおいて、始めから大人の手助けが必要であることがわかっているものについては一考を要するでしょう。前号でお知らせしましたが、「金銭の徴収」にかかわること、「物品の購入」にかかわること、「教育課程の変更」にかかわることなどは、子どもたちだけでは解決できない議題です。

その4 創意・工夫の余地がある議題

4つめの視点は「創造性」です。子どもたちの話し合いを活発化するためには、一人ひとりがいろいろな意見を出せるものがよいと考えます。例えば「サッカー大会の計画を立てよう」という議題案が出された場合、提案者や計画委員会の子どもたちとよく話し合い、学級の問題を解決する方向で「女子が活躍できるようなサッカー大会の計画を立てよう」という議題にします。「女子が活躍できる」という条件をつけることによって、創意工夫のある意見が多く出されることが期待できます。

その5 児童の発達段階に即した議題

5つめの視点は「発達性」です。低学年では身の回りのできごとにかかわる議題を選ぶようにします。高学年になれば、「学級生活を向上発展させる」という観点から議題を選ばせることも大切になってきます。

■ 議題化の作業とその後の対応

子どもたちが提案した議題案の中には、問題点のはっきりしないものや、何を話し合っているのか分からないものも多くあります。その場合、問題を議題化する作業が必要になってきます。そのために、議題案を出してくれた子どもにもっと詳しくたずねるなどして問題の焦点化を図ることが大切です。

議題が決定したら、提案者に対して「お礼状」を出させます。また、取り上げられなかった議題を出してくれた人にも、その理由を明記して知らせましょう。決定した議題は帰りの会などで全員に報告します。

2 運動会を学級作りに生かす

山口市立平川小学校 梶田崇晴

2学期といえば運動会。ほとんどの学校で、9月もしくは10月に運動会が行われます。この運動会を学級作りに生かすにはどうしたらよいかを考えてみたいと思います。

◇ はじめに

まず、前提として、運動会を始めとした「学校行事」の特別活動における位置を考えておきたいと思います。学校行事といえば「与えるもの」と思い込んでいる方がたくさんおられるのではないのでしょうか。また、「与えられることに慣れてしまっている子どもたち」の姿もよく見られます。これが学校行事にみる現実の姿ではないのでしょうか。学校によっては、校務分掌の特別活動部から学校行事が切り離されているところもあるというのが驚きです。

学校行事は、教育課程上、特別活動の一領域に入っています。ということからすると、特別活動の目標である「協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」というものを無視することはできないはずです。そのためには、学校行事においても「みんなで創り上げる喜び」を子どもたちに味わわせたいものです。

◇ 職員会議での提案

1学期末か夏休みの職員会議で、運動会の提案がなされます。それぞれの学校ではどのような提案がなされ、検討されるのでしょうか。例えば、提案に対して単純に効率性や合理性だけを要求する意見や慣例や前例に固執するだけの意見が出されるようであれば、子どもが生き生きと活動する運動会はあまり期待できないと考えます。大切なことは、提案された目的やねらいについて、子どもたちの視線に立った協議を行うということです。行事を通して、子どもたちにどのような体験をさせたいのか、どのような力を育てたいのかをしっかりと協議してほしいと考えます。そうすることによって、行事に自分の学級をどうかかわらせたらよいのか、自分の学級の子どもたちをどうかかわらせたらよいのかという思いや願いが担任に生まれてくるのです。

◇ 学級での取組み

職員会議での提案が済んだら、次はいよいよ学級での取組み開始です。行事の準備や実施に当たって、各学級でどのようなことを、どのような手順で進めていくか具体的に話し合わせておきたいものです。

《ポイント1 組織をつくる》

学級として行事に取り組んでいくにあたって、活動の母体となる学級に組織をつくりたいです。私がこれまでに取り組んできたものに、実行委員会制度があります。

▽ スローガン実行委員会

運動会にスローガンはつきものです。そこで、スローガンを作成するための実行委員会を作ります。そこで考えた案を代表委員会に提案するのです。

また、代表委員会でスローガンが決まった後、そのスローガンをもとに学級で取り組む約束事を考えました。

▽ 児童会種目実行委員会

ある学校で、運動会のプログラムに児童会種目というのがありました。そこで、その案を考え、代表委員会に提案する実行委員ができました。練習の仕方や参加の仕方も考えていました。

▽ 運動会盛り上げ実行委員会

運動会を盛り上げるために、自分たちになにができるかを考えさせます。過去の例では、運動場の石拾い、各競技の応援の仕方、児童席での過ごし方などを考えていました。

《ポイント2 出番をつくる》

これらの実行委員会は、担当の委員だけでできるものではありません。実行委員は、学級の全員が取り組むことの音頭をとる役目を担うものでありたいと思います。

ここでいう出番とは、一人ひとりがその活動に対して何らかの役割を持つということです。実行委員長としてリーダーシップを発揮する子もいるでしょうし、逆にリーダーを支える役としてフォロアーシップを発揮する子もいるでしょう。これらの活動を通して、子どもたちに役割体験(役立つ喜び)や貢献体験(支え合う喜び)を保障することにつながるのです。

《ポイント3 めあてを意識させる》

活動を活性化するためには、ゴール(めざすもの)を明確にすることだと考えます。ここでいうゴールとは、学級目標です。学級や学年の枠を越えた行事であっても、基盤は学級にあると考えます。そこで、学級目標を意識させることによって、学級の成長に生かしていけると考えるのです。

*自分の考えを持って行動しよう

*どんなことでも一生懸命に取り組もう

*誰にでも優しく声をかけよう

*いつでも楽しく笑顔いっぱいだよ

例えば、このような学級目標であった場合には、「自分の考え」「一生懸命」「誰にでも優しく」「楽しく」という4つのキーワードを意識させるようにします。そして様々な活動の中で具体的な取組みに反映させていくのです。そのことによって、一人ひとりの成長が保障され、同時に学級集団としての力を伸びていくと考えます。

3 報告「山口学級活動ネットワーク 夏の学習会」 その2

8月26日(土)に山口学級活動ネットワーク主催の学習会を行いました。参加してくださった先生方から、たくさんの感想や意見をいただきました。そのいくつかを紹介します。

- ◇特活に対してたくさん学ばせていただきありがとうございました。相原先生の講演の中で「自己価値観」というのが印象に残りました。失うものがなくなると何でもするようになる。ある意味怖いものです。自己価値観，つまり自尊心を子どもたちに付けることが私たちの使命だと思います。文科省の杉田氏も人間関係，自尊心を特活の重要な要素としてあげておられます。学びとしての力量も印象に残りました。教師は学び続けないといけないと思いました。ありがとうございました。
- ◇大変参考になりました。私のやってきた学級活動を思い出しました。教師の授業技量向上という視点を持ってもっと学んでほしいと思いました。現場の事実は大きく変化しています。授業と学級作り両面が大切なのは同感です。ありがとうございました。
- ◇学級のトラブルをチャンスにしたさわのび杯までの経緯が大変参考になりました。先生の子どもに寄り添う姿がどんどん思い浮かびました。運動苦手な子どもの事実から知能系，技能系，時の運系という分野別に分け，子どもたちから出たのがよかったです。「第1回」という仕掛けも，長く続けるコツだと思いました。実行委員会のシステムも大変参考になりました。さわのび杯が成功し続けているという子どもたちの理由もすごかったです。
- ◇子どもの事実をもとに学級作りをやっていく過程がよく分かりました。全体的な雰囲気はよく分かりましたが，個の成長なり，支援を必要とする子の存在なども含めてもらえるともっとよかったと思います。梶田先生だけの実践にしておくのはもったいないです。どう一般化するかが大切でしょう。10の原則，よくわかりました。ありがとうございました。
- ◇実践を聞き，担任としても校務分掌からもやるべきこと，やりたいことにたくさん気づかされました。学級イベント後のふり返りは必要不可欠ですね。楽しませっぱなしであったことが恥ずかしく思われます。問題が起こったときだけ話をさせていました。

4 メルマガ情報交換広場

このメルマガを使って，学級作りについての情報交換をしませんか？メルマガ購読者のみなさんの実践をお知らせください。このメルマガを双方向の情報交換誌にしていましょ。8月の学習会の参加者から寄せられたテーマは，次の通りです。

- ◇特活における授業について
- ◇学級で行う簡単なゲーム・集会で行う全校ゲーム
- ◇軽度発達障害の子どもたちと特別活動
- ◇子どもに自己価値観を感じさせることができる実践
- ◇朝の会や帰りの会での学級作りに役立つ実践
- ◇子どもが本気になった係活動

- ◇学級会のまとめ方，具体的な助言
- ◇学級会での話し合いの進め方。
- ◇いろんな意見を出し合えるようにするための実践
- ◇イベント等をおこなうための時間の確保

これ以外でも，こんな情報が知りたい，こういう特集を組んで欲しいというものがありましたら下記アドレスまでメールでお知らせください。

☆ sugi-net@c-able.ne.jp

5 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第12号は9月下旬ごろ発行予定です。

次号では，「子どもが主体的に取り組む話し合い活動～計画委員会～」 「朝の会・帰りの会」について紹介する予定です。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は102名です。当初の目標の100名を超えました。少しずつ購読者が増えてきています。もっともっとメルマガ仲間を増やしたいです。

お知り合いの方にこのメルマガを紹介してもらえませんか。

登録については，山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

=====
山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（山口市立平川小）

津村元文（防府市立西浦小）

能勢雅子（山陽小野田市立高千帆小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小）

=====